

令和7年度塩尻市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

塩尻市は、長野県のほぼ中央に位置し、降水量が少なく、寒暖の差や日温較差が大きい内陸性気候であるため、農産物の栽培に恵まれた地域である。各地区ごとの気候や立地条件を活かし、米、麦、そば、大豆、高収益作物等の多様な品目が栽培されており、特に高原野菜の栽培は、県を代表する産地として発展している。また、近年では市内ワイナリーや新規就農者によるワイン用ブドウの栽培が増加している。

一方、農業従事者の減少や高齢化が進行し、それに伴う農業経営の規模縮小や廃止が懸念されており、地域農業を担う経営体の確保や農地集約等による農業の効率化が求められている。また、中山間地域等の農業生産性が低い農用地においては、遊休農地・耕作放棄地の解消や発生防止が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

地域の特性を活かした高収益作物の導入を推進し、収益力向上による安定的な水田農業経営の確立を目指す。また、麦、そば、大豆等の土地利用型作物については、基本技術の徹底や適地適作により、安定的な生産を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

比較的省力的な管理が可能で、水稻作に利用していた機械を活用できる麦、そば、大豆の生産拡大に努める。畑作物のみを生産し続けている水田や、今後も水稻作に活用される見込みがない水田等については、現状を点検し、状況を把握する。その結果を踏まえ、畑地化が可能な農地については、畑地化促進事業等を活用した畑地化を検討する。また、地域の実情に即したブロックローテーション体系の構築を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

需要に応じた適正生産を行う。

(2) 備蓄米

需要に応じた生産を行う。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

J A や市内畜産農家等と連携し、需要に応じた生産を行う。また、生産性向上のための取組を推進する。

イ 米粉用米

新たな販路の拡大を目指し、J A や実需者等と連携し、需要に応じた生産を行う。また、生産性向上のための取組を推進する。

ウ 新市場開拓用米

新たな販路の拡大を目指し、輸出事業者等と連携して取組を強化する。また、安定取引の観点から、産地交付金を活用した複数年契約を推進する。

エ WCS 用稲

J A や市内畜産農家等と連携し、需要に応じた生産を行う。また、生産性向上のための取組を推進する。

オ 加工用米

水稻栽培を中心に営む農業者の転作作物として、J A や実需者等と連携し、取組の拡大を目指す。また、生産性向上のための取組を推進し、安定した供給体制と経営の効率化を図る。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦および大豆については、作付適地において計画的な作付けを実施し、適期播種・適期追肥に加え、基本技術の徹底を図ることで、収量および品質の向上を目指す。

飼料作物については、畜産農家の自給飼料確保を目的として、栽培面積の拡大を推進する。

(5) そば、なたね

そばについては、適期播種および適期収穫の徹底により、品質の向上と安定的な生産量の確保を図る。また、地域内の加工業者等との連携を強化し、地産地消の推進を図るとともに、観光資源との連携による高付加価値化を目指す。

(6) 高収益作物

野菜については、総合的な産地を維持・発展させるために、産地交付金を活用しながら、水田の有効活用を推進し、安定的な供給体制の確立を目指す。

果樹については、地場産業であるワイン産業と連携したブドウの栽培を推進し、各地区で農地集約を進めることにより、生産性の向上と地域農業の活性化を図る。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。

５ 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等		当年度の 作付予定面積等		令和８年度の 作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	511.5		532.5		511.5	
備蓄米	0.0		0.0		0.0	
飼料用米	1.2		0.1		0.1	
米粉用米	3.6		0.1		5.5	
新市場開拓用米	14.1		3.2		15.0	
WCS用稲	1.9		0.8		3.5	
加工用米	37.4		38.0		40.0	
麦	36.5		32.4		40.0	
大豆	38.5	3.5	35.9	2.3	41.5	3.5
飼料作物	3.5		3.3		3.5	
・子実用とうもろこし	0.0		0.0		0.0	
そば	49.3	8.4	43.7	7.2	51.5	8.5
なたね	0.0		0.0		0.0	
地力増進作物	0.0		0.0		0.0	
高収益作物	33.0		33.1		36.5	
・野菜	30.0		30.4		33.0	
・花き・花木	0.6		0.6		0.5	
・果樹	2.4		2.1		3.0	
・その他の高収益作物	0.0		0.0		0.0	
その他						
畑地化	0.0		0.0		0.0	

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	大豆（基幹作）	大豆1ha以上の作付に対する助成	作付面積（全体）(ha) /1経営体当たり(ha)	(令和6年度) 35.0ha、3.2ha	(令和7年度) 38.0ha、3.8ha (令和8年度) 38.0ha、3.8ha
2	そば（基幹作）	そば1ha以上の作付に対する助成	作付面積（全体）(ha) /1経営体当たり(ha)	(令和6年度) 40.9ha、1.1ha	(令和7年度) 43.0ha、1.1ha (令和8年度) 43.0ha、1.1ha
3	麦（基幹作）	麦2ha以上の作付に対する助成	作付面積（全体）(ha) /1経営体当たり(ha)	(令和6年度) 36.5ha、2.3ha	(令和7年度) 40.0ha、2.8ha (令和8年度) 40.0ha、2.8ha
4	加工用米（基幹作）	加工用米の生産性向上に対する取組への助成	作付面積(ha)	(令和6年度) 37.4ha	(令和7年度) 40.0ha (令和8年度) 40.0ha
5	飼料用米、米粉用米、WCS用稲（基幹作）	新規需要米の生産性向上に対する取組への助成	作付面積(ha) 飼料用米 米粉用米 WCS用稲	(令和6年度) 1.2ha (令和6年度) 3.6ha (令和6年度) 1.9ha	(令和7年度) 0.1ha (令和8年度) 0.1ha (令和7年度) 5.5ha (令和8年度) 5.5ha (令和7年度) 3.5ha (令和8年度) 3.5ha
6	野菜、果樹、花き・花木（基幹作）（別紙のとおり）	高収益作物に対する助成	作付面積(ha) 野菜 果樹 花き・花木	(令和6年度) 30.0ha (令和6年度) 2.4ha (令和6年度) 0.6ha	(令和7年度) 33.0ha (令和8年度) 33.0ha (令和7年度) 3.0ha (令和8年度) 3.0ha (令和7年度) 0.5ha (令和8年度) 0.5ha
7	そば（基幹作）	そば（地域の取組みに応じた配分）	作付面積(ha)	(令和6年度) 40.9ha	(令和7年度) 43.0ha (令和8年度) 43.0ha
8	新市場開拓用米（基幹作）	新市場開拓用米（地域の取組みに応じた配分）	作付面積(ha)	(令和6年度) 14.1ha	(令和7年度) 15.0ha (令和8年度) 15.0ha
9	新市場開拓用米（基幹作）	新市場開拓用米の複数年契約（地域の取組みに応じた配分）	複数年契約取組面積(ha)	(令和6年度) 0ha	(令和7年度) 0.1ha (令和8年度) 0.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:長野県

協議会名:塩尻市農業再生協議会

整理 番号	使 途 ※1	作 期 等 ※2	単 価 (円/10a)	対 象 作 物 ※3	取 組 要 件 等 ※4
1	大豆1ha以上の作付に対する助成	1	8,000	大豆(基幹作)	対象作物の1ha以上の作付
2	そば1ha以上の作付に対する助成	1	8,000	そば(基幹作)	対象作物の1ha以上の作付
3	麦2ha以上の作付に対する助成	1	8,000	麦(基幹作)	対象作物の2ha以上の作付
4	加工用米の生産性向上に対する取組への助成	1	10,000	加工用米(基幹作)	生産性向上のための取組
5	新規需要米の生産性向上に対する取組への助成	1	10,000	飼料用米、米粉用米、WCS用稲(基幹作)	生産性向上のための取組
6	高収益作物に対する助成	1	5,000	野菜、果樹、花き・花木(基幹作) (別紙のとおり)	アスパラガス:新植より4年以内 永年性作物のうち果樹:新植より4年以内 その他の永年性作物:3年以内
7	そば(地域の取り組みに応じた配分)	1	20,000	そば(基幹作)	出荷業者、実需者等との販売契約を締結し、販売
8	新市場開拓用米(地域の取り組みに応じた配分)	1	20,000	新市場開拓用米(基幹作)	新市場開拓用米取組計画の認定
9	新市場開拓用米の複数年契約(地域の取り組みに応じた配分)	1	10,000	新市場開拓用米(基幹作)	新市場開拓用米取組計画の認定を受け、令和6～8年の複数年契約を締結

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「1」、二毛作を対象とする使途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

(別紙) 高収益作物(野菜・果樹・花き・花木) 対象品目一覧表

野菜	(あ)	アスパラガス	いちご	いんげん	えだまめ
		エンドウ豆	エンダイブ	オクラ	
	(か)	加工用トマト	かぶ	かぼちゃ	カリフラワー
		かんしょ	菊芋	キャベツ	きゅうり
		行者ニンニク	金糸瓜	ケール	ゴーヤ
		ごぼう	小松菜		
	(さ)	ささげ	さつまいも	さといも	山東菜
		ししとう	しそ	じゃがいも	春菊
		しょうが	白ウリ	すいか	スイートコーン
		ズッキーニ	せり	セルリー	
	(た)	タアサイ	だいこん	たまねぎ	チンゲンサイ
		つけ菜類	とうがらし	とうがん	とうのいも
		トマト			
	(な)	ながいも	なす	にら	にんじん
		にんにく	ねぎ	野沢菜	
	(は)	はくさい	パセリ	ピーマン	ブロッコリー
		ほうれんそう	ホンウリ		
	(ま)	モロヘイヤ	みょうが	メロン	みずな
	(や)	ヤーコン	やまいも	やまごぼう	ゆうがお
	(ら)	らっきょう	レタス	れんこん	
		その他野菜			
果樹	(あ)	あんず	いちじく	うめ	
	(か)	かき	木イチゴ	キウイフルーツ	ぎんなん
		くり	くるみ		
	(さ)	さくらんぼ	さるなし	すもも	西洋なし
		ソルダム			
	(な)	日本なし			
	(は)	びわ	ぶどう	ブルーン	ベリー類
	(ま)	まるめろ	もも		
	(や)	やまぶどう			
	(ら)	りんご			
		その他果樹			
花き	(あ)	アーティチョーク	アザミ	アスター	アネモネ
		アヤメ	アリウム	アルストロメリア	アンゲロニア
		イブニングスター	エキナセア	エキノプス	エリンジューム
		オーニソガラム	オダマキ	おみなえし	
	(か)	カーネーション	貝細工	カキツバタ	かすみ草
		カラー	観賞用唐辛子	カンパニュラ	キキョウ
		キク	金魚草	クジャクソウ	グラジオラス
		クリスマスローズ	ケイカ	ケイトウ	コスモス
	(さ)	ササリンドウ	サマーチェリー	サンダーソニア	ジギタリス
		シクラメン	秋明菊	女郎花	スイートピー
		スイセン	スカビオサ	スターチス	ストック
		スモークグラス	セロシヤ	千日紅	ソリダコ
		ソリダスター			
	(た)	ダイアンサス	ダリア	チーゼル	チューリップ
		デルフィニウム	トルコギキョウ	トレニア	
	(な)	ナデシコ	菜の花	ネメシア	
	(は)	はす	バラ	パンジー	日扇
		ひまわり	姫ひまわり	ヒメユリ	風船とうわた
		フサスグリ	ブプレウラム	フリージア	ペチュニア
		ベニバナ	ベビーコーン	ヘリクリサム	ヘレニウム
		弁慶草	ほうき草	ほおずき	ホトギス
	(ま)	マトリカリア	マリーゴールド	ミシマサイコ	メジューム
		モルセラ			
	(や)	矢車草	ユリ		
	(ら)	ラークスパー	ラナンキュラス	ラベンダー	ラン
		リアトリス	リオン	リンドウ	ルドベキア
		ルピナス	レースフラワー	れんげ	
	(わ)	ワレモコウ			
		その他花き			
花木	(あ)	アジサイ	イチイ	ウメモドキ	
	(さ)	桜	シンフォリカルボス	スモークツリー	セツカヤナギ
	(た)	ツルウメモドキ			
	(な)	南天			
	(は)	ビブルナム	ヒベリカム	ボケ	
	(ま)	紫式部			
	(や)	ユーカリ			
	(ら)	レンギョウ			
		その他花木			